

豊肥・南部振興局主催
第2回「肉用牛ゼミナール 地域研修会」

研修日：平成26年12月18日(木)

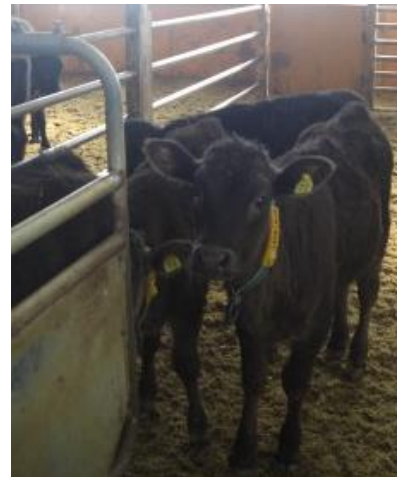
研修先：竹田市 古澤牧場・広瀬牧場

12月18日、豊肥振興局主催で、第2回地域研修会が佐藤隆幸アドバイザーを迎え、受講生の古澤智士さんと広瀬啓三さんの牧場で行われました。

古澤牧場では、両親とは別に本人名義の母牛を導入し共同経営者としての立場で経営を行っています。



母牛には体温監視通報システム「牛温恵」を導入しており、生まれる直前になると母体の状況を教えてくれるので、適切な管理ができ、省力化にも役立っていました。



子牛は出生後すぐに母牛から離される超早期離乳を行っています。カウハッチで約1週間管理し、その後ロボットで飼育されます。哺育舎では水槽が凍らないように「サーモスタット」を入れて保温しています。

また、子牛の情報は付箋で管理し、牛を移動したら付箋もその牛舎に移すことで、記録の省力化を図るなど色々な工夫がされていました。



続いて、広瀬牧場に場所を移して見学を行いました。

広瀬牧場では、市場への出荷成績や牧場内のデータを自分で分析し飼養管理の参考にしています。



粗飼料は飼料畑を活用した牧草生産や稲ワラの堆肥交換などで確保し、自給率を高めています。

分娩が近付くと、監視カメラを設置している牛舎に移動し管理していますが、監視カメラを活用した適切な観察で省力化を実感しているそうです。

また、出産前後は母牛にビタミン（ビタラップ等）投与しています。



子牛は生まれてから4カ月まで母乳で管理されます。分娩後からスターター飼料、フスマ、良質粗飼料を飽食出来るようにしています。その後は、子牛の牛舎に移動し出荷まで管理されます。

